

彼岸からこちらを見つめる目に、わたしの目を合わせる

視線と視線が向かい合ったその間には、抽象的なイメージが漂い、時間が伸縮する

目と目を交換し、彼岸と此処、双方の地点から先を見つめる

道路の側溝で泥や砂を被り身をよせあう物

本体から切断され何ものでもなくなった物

本来の機能が剥奪され何ものでもなくなった物

断片同士の物が身を寄せ合う場

物がどんな体をしているのか、しゃがんで凝視する

手に取り、目をやり、持ち帰る

土、砂を洗い流す、肌が現れる

道路の側溝で、公園で、田畑の隅で

泥や砂を被り身をよせあう物に目をやる

土、砂、石、草、それ自体にも目をやる

具体的な姿をもちながら抽象化されたそれら一体一体を

ビニルシートに並べて虫干しする

乾いた物の体に塗料を垂らす

時間において明度の異なる塗料を重ねる

本体から切断され何ものでもなくなった物

本来の機能が剥奪され何ものでもなくなった物

物の体に無彩色の穴があいていく

物の肌の色が強度を増す

物がイメージになりかける

断片同士が身を寄せ合う場自体にも目をやる

肉眼で、ファインダーで、モニターを使って目をやる

物によつて構成された場を、光と像⇨イメージに変換する

イメージをインクに変換する

紙にインクを浸透させて変換する

その紙を破く、手で破く

イメージは後退し、紙が前傾化する

イメージは物になりかける

物がイメージに、イメージが物になりかけること

あるいは物がイメージになつてしまい

イメージが物になつてしまうこと

彼岸とここに立つ者の目が入れ替わるように

モノの次元が入れ替わつてしまうこと

次元の越境を確認するには何かしらのフレームが必要である

四十三年前、夙川公園で金属の骨組みに沿っていたテント生地は

四十三年後、物とイメージが鍾となつて地面に沿っている

四十三年前、仮設の展示空間をフレーミングしたテント生地は

四十三年後、仮設の絵画空間を、仮設の庭を、フレーミングしている

此処と彼岸の間に漂う

物に、イメージに、フレームに目をやる

何者でもないそれらの舞台に目をやる

ここにあるのは、此処と彼岸の間にある、伸縮自在な抽象的な空間の現前化である